

第12回生体恒常性とストレス応答セミナー

プロテアソーム研究の最前線

東京大学大学院薬学系研究科蛋白質代謝学教室

教授 村田 茂穂 先生

日時: 2012年5月15日(火)

18:00~19:30

場所: 山口大学医学部総合研究棟8階セミナー室

30年前のユビキチンシステムの発見を端緒に、酵母から哺乳類に至る全ての真核生物においてユビキチン・プロテアソームシステムによるタンパク質分解が多彩な生命現象に積極的に関与していることが明らかとなってきた。その一方で、生物の進化とともにプロテアソームも進化した。脊椎動物では主要組織適合抗原複合体(MHC)の出現と時期を一にして、新しいサブユニットを獲得することにより“免疫プロテアソーム”と“胸腺プロテアソーム”を作りだし、プロテアソームによるタンパク質分解の副産物を適応免疫システムの構築に必須のものとして利用した。本講演では、プロテアソームの多様性の生物学的意義、およびこの多様性を支えるプロテアソーム分子集合のメカニズムを概説し、今後のプロテアソーム研究の展開について紹介したい。

医学部学生・大学院生を含め、多くの方のご来場をお待ちしております。

主催: 山口大学研究推進体「ストレス応答と関連した難治性疾患の克服のための戦略」
問い合わせ先: 医化学分野 中井 彰(2214)

